

令和6年度学校関係者評価表

<学校経営ビジョン（めざす学校像）>

【学校スローガン】「海に学び 海をひらき 世界にはばたく」
 生徒の個性を大切にすることで、生徒がお互いを尊重し合い、支え合い、考える力と確かな技術、豊かな人間性を着実に身につけさせ、適性を生かした進路を実現させることにより、生徒・保護者・地域・企業の願いに応えることができる信頼される学校をめざす。

令和6年度の重点目標

①「海洋ブランド」の確立に向けた教育の推進

- これからの社会を「善く生きる力」を身につけるために、普通教科による基礎学力の定着や健全な心身の育成、専門教科による校内外の教育資源（高大、地域、学校間、教科横断等）を活用した探究活動の充実を図る。
- 各コースそれぞれの専門性を高めながらも、これからの産業界の在り方を見据えて、教科横断型の学習や体験的に活動する学習を展開する。
- 社会性を育み、将来を豊かに生きる力を育成するためにHR活動や部活動の充実を図る。

②生徒一人ひとりを大切にし向上心を高める教育の推進

- 生徒一人ひとりに目を向け、アクセシブルデザインの視点に立った授業改善を図る。
- スクールワイドPBSの視点に立った社会的なモラルや、人間関係構築力を身につけるための生徒支援に取り組む。
- 多様なニーズに対応した支援体制の強化を図り、一人ひとりの生徒を確実にサポートする。
- 生徒の夢実現のために計画的に系統的・組織的なキャリア教育・職業教育に取り組む。

③地域の期待に応える教育の推進

- SNSや報道機関の活用、学校開放や幼保・小・中学校との連携強化により、積極的に地域への情報発信を行う。
- 生徒に地域の魅力を再発見させ、将来、地域社会で活躍しようとする意欲を醸成する。

④第6代進洋丸の有効活用の推進

- 県民に広く開放し、海洋についての理解と関心を深める海洋教育に取り組む。
- 全国枠募集に係る寄港地でのPR活動に取り組む。

評価段階 A：十分達成 B：概ね達成 C：検討の余地あり D：不十分

重点目標	今年度の目標および取組（担当部署）	自己評価	関係者評価
①「海洋ブランド」の確立に向けた教育の推進	学び直し等の取組を全学年で実施し、基礎学力や就職試験等に必要な力を身につけさせ、学習習慣の定着を図る（教務部）	B	B
	一部のクラスで実施時期の変更はあったが、希望に応じたインターンシップを実施でき一定の成果があった（進路支援部）	B	
	九州地区生徒研究発表大会で最優秀賞を受賞し、マリンロボットコンテストでは全国3位を受賞することができた（海洋科学科）	B	
	校内課題研究発表大会では中小企業家同友会に審査員をお願いし、生徒の取組を評価していただいた（海洋科学科）	B	
	ICT機器やDX関連機器を取り入れた授業が少しずつ増え、効果的な授業や評価が進められてきた（海洋科学科）	B	
②生徒一人ひとりを大切にし向上心を高める教育の推進	授業でのICT活用やアクセシブルデザイン化の啓発を図り、強化週間により学校全体としての推進を目指す（教務部）	B	B
	生徒が問題のある行動を起こした場合には学年や教育相談と連携し支援を行った（生徒支援部）	B	
	ICT活用を進め、求人票をPDF化し自宅で保護者と閲覧できるシステムを実現した（進路支援部）	B	
	学級担任を中心に全職員の協力を得て進路指導を行い進路決定100%を達成できた（進路支援部）	A	
	海洋行事や実習製品販売、産業教育フェア等で人間力を育成できた（海洋科学科）	B	
③地域の期待に応える教育の推進	県内の全中学校へ学校説明会の案内を送付した。学校説明会のスライドの改善を行った（教務部）	B	B
	携帯電話等の自己管理ルールについては、校則見直し委員会で十分協議できた（生徒支援部）	B	
	九州カッター大会や産業教育フェアなど大きな大会やイベントなどで各コースの枠を超えた連携した取組を実現した（海洋科学科）	B	
④第6代進洋丸の有効活用の推進	全国募集に係る学校説明会を進洋丸の寄港地の岡山と大阪で実施した（教務部）	B	A
	航海技術コース・機関工学コースがハワイ、海洋資源環境活用コースとマリンフードコースが台湾へ国際航海を行い生徒全員が海外への航海ができるようになった。	A	